

教育と臨床現場をつなぐ教育インストラクター育成研修を試みて

笹川寿美, 倉ヶ市絵美佳, 山本容子, 岡山寧子

(京都府立医科大学医学部看護学科) (京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター)

【目的】A 大学では,平成 23 年度から看護部と看護学科が協働し,基礎教育から卒後 3 年目までの後輩育成に携わる教育インストラクターの研修を企画し,実施している.研修は,教育インストラクターの役割を理解し,実践していくために,まず看護学生・新人看護師のレディネスを理解することを中心とした講義(330 分)を受講し,その後看護学科の授業や経年的院内研修に参加している.今回は,講義の評価から次年度への課題を明らかにする.

【方法】対象:講義に参加した附属病院の看護師 7 名で,講義終了後に無記名自己記入式質問紙によるアンケートを実施した.時期:平成 23 年 6 月.調査内容:講義内容,良かった内容,時間と研修に対する意見の自由記述.講義内容:看護部の教育体制・教育インストラクター研修について,看護基礎教育の現状,学生の臨床実践能力の現状,新人看護師の臨床実践能力の現状,成人学習者の特徴,指導の基礎知識・スキル(ティーチング・コーチング)であった.倫理的配慮:口頭で主旨及び同意しない場合も不利益を被らないことを説明した.

【結果】回収率 100%.看護師の経験年数は,全員が 10 年目以上であった.講義内容は,「良い」85.7%,「まあまあ良い」14.3%で,理由は「学生,新人看護師をよく理解できる内容の講義だった」「現在の看護基礎教育課程のアウトラインを知ることが出来た」であった.良かった内容は,「指導の基礎知識・スキル」85.7%,「成人学習者の特徴」71.4%で,理由は「自分の指導方法を見直すよい機会となった」「指導を行う上でのポイントが分かった.特徴を理解すれば指導の方法を模索しやすい」であった.自由記載では,「自分が新人看護師を理解しようとする姿勢が不十分だった事がわかった.ティーチング・コーチングを段階に応じてさせていく方法が明確化され,自分の指導方法に活かせる」「指導スキルの実例の演習・意見交換ができれば OJT で役立つ」等指導の基礎知識・スキルに関する内容であった.講義時間の長さは,全員が適切と答えていた.

【考察】講義を通し,自分自身の後輩への指導方法を振り返る機会になったこと,今後指導を行っていく上でポイントとなることを習得でき,講義時間も適当であり今後の研修への動機づけにつながったと考える.次年度は,受動的な講義だけでなく,グループワーク等参加型の内容も検討する.

本報告は,文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である.